令和４年度を迎えて

加古川はぐるま福祉会
理事長　髙井　敏子

令和4年度がはじまりました。

後援会会員の皆様、そして、加古川はぐるま福祉会の活動にご支援ご協力をいただいております皆様に心より厚く御礼申し上げます。

ここ2年以上も続く新型コロナウイルス感染症は私たちの生活様式に大きな変化をもたらしました。3月末には蔓延防止等重点措置は全面解除されましたが、加古川市内では感染者は高止まりしており、春の人流に合わせ再び増加傾向にあります。「いつまで続くのか」という思いはありますが、今年度は感染防止対策を徹底しながら、可能な限り日常業務を当たり前にしたいと願っています。

さて、加古川はぐるま福祉会は設立満42年を迎えました。法人活動の礎である「加古川はぐるまの家」が新築されて2回目の4月を迎えました。働く機能が充実した加古川はぐるまの家で「さぁー仕事頑張るぞー」と思いきや、コロナの影響で仕事量は不安定で激減。それでもスポットながら新たな仕事も開拓することが出来ました。これまで金属を相手にエアードライバーやエアーハンマー等工具を使っていた方が、紙のおしゃれなレターセットや柔らかい繊維製品の点検、シール貼り、包装作業や箱の組立等に着手。加古川はぐるまの家では「正確・安全に効率よく、納期を守る」を徹底することで企業様から信頼され仕事量を確保してきました。今回お世話になった企業様はあまり期待されていなかったようですが、実際の仕事内容を見て、利用者の質の高い働く姿勢と職員の働く環境づくりを評価していただくことが出来ました。新たな挑戦にはいろいろ苦労はありますが、利用者さんと職員の共働作業は新たな働く力の発見に繋がり大きな成果だと思っています。

一方、生活支援センターでは入所事業と通所事業は完全にゾーン分けして活動してきました。特に入所施設の利用者さんは狭い居住空間の中でストレスが溜まっていることと思いますが、今も誰一人コロナに感染することなく生活することが出来ています。これは利用者さんと職員の並々ならぬ我慢と努力の賜物だと痛感しています。今年度から家族の面会や帰省、外出も徐々に解除しましたが、状況を注視しながら可能な限り当たり前の生活に戻していきたいと願っています。

このようにコロナ禍で翻弄され、加えてロシアによるウクライナへの侵攻。目を覆いたくなる惨状が続き世界中に大きな衝撃と影響が出ています。しかしこの間も時間は止まることなく進み続けています。

そして、時代の流れと共に障害福祉制度は充実し、地域には障害福祉サービス事業所が溢れる程できました。一方、利用される側の当事者の方、家族、そして地域から求められる障害福祉サービス（幅広い生きづらさを抱えた方への対応も含め）に対する考え方も多様化しています。

こんな中、当法人が地域から選ばれる事業所としてすべきことは、基本理念を基に継承すべき大切なことは継承する一方、時代の変化に即応する柔軟な姿勢が必要です。各事業が連携して特色ある施設カラーを前面に出して安全、安心を第一に精度の高いアセスメント力を活かし質の高い福祉サービスを提供できることをもっとＰＲして、一人でも多くの方にご利用いただけるように取り組んでいきたいと思います。

それから、今春から障害福祉サービス事業所でも虐待防止・身体拘束等適正化、パワーハラスメントに関する規則、ＢＣＰ（緊急時事業持続計画）等々あってはならない事ばかりですが、運営規程等のもと委員会をつくり対応することが義務付けられるようになりました。人権擁護並びに危機管理体制の強化のため、必要な研修を行い共に学び現場で活かせるように努めたいと思います。

また法人全体の課題としては各事業の職員配置数は確保していますが、次世代に繋ぐための職員確保と人材育成。そして常態化している定員割れを改善することです。

具体的には次頁の事業計画でも掲載していますが、「生活支援センター」では建設から26年が経過。計画的な修繕修理が必要です。また利用者さんは年を重ねちょっとした段に躓いたり、これまで出来ていたことが出来なくなったりしています。生活を豊かに楽しんでもらえるようにこれまで以上に小さなサインや変化に気付けるような支援に心がけ、利用者の方や家族の方が「ここで暮らして安心・幸せ」と感じてもらえるように職員一丸となり支援していきたいと思います。

働く施設「加古川はぐるまの家」はこれからも働くことにこだわり、働くことを通してご自身が輝いていることを実感して頂き、その延長線上にB型事業からも企業就職できるように支援していきたいと思います。昨今、公共交通機関がどんどん減少し通所がしにくくなっています。その改善策にもできることから取り組んでいきたいと思います。

このように課題山積の新年度です。歴史を重ね、守りの姿勢ではなく、自ら能動的に学び発信する心を忘れずに、働き方改革推進中ですが、職員間のコミュニェーションを密にして働きやすい職場づくりを目指して前進したいと思っています。

これからも加古川はぐるま福祉会の基本理念を大切に、次頁に掲げました新年度の事業計画を基に、役・職員一丸となり「チームはぐるま」で次世代に繋いでいきたいと念じております。

今年度もどうか変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和４年度 社会福祉法人加古川はぐるま福祉会 事業計画

1 基本理念

「障害がある」ということ自体が不幸なことではなく、むしろそれが理由に「普通に働き、暮らすこと」を妨げられることが不幸なことだと考えています。

「大人になれば働く」「自分なりの生活を築く」・・・。ごく自然なことのようですが、障害のある人達が「自立」を達成・維持するためには様々な障壁を乗り越えなければなりません。彼らにとって「加古川はぐるま福祉会」は厳しい社会から『守られる場所』ではなく、人生を切り開く『力を養う場所』であり、自助努力するために必要な援助が受けられる『支援機関』でありたいと願っています。

新型コロナウイルス感染症が蔓延して2年以上が経過しました。収束にはまだまだ時間がかかりそうです。この間、社会生活や経済活動は一変。心身ともに疲弊しています。まずは利用者、家族、職員が安心して暮らせるように感染防止に万全を尽くし、可能な限り普通の生活ができるように取り組みます。

社会福祉法人として公益性と非営利性を確保し、地域貢献を果たしながら障害のある人が住み慣れた地域の中で存在感を発揮して、当たり前に働き・暮らす多様で柔軟な社会構築のため、基本理念を大切に各事業を推進します。

2 基本的な活動方針

厳しい潮流の中、新生『加古川はぐるま福祉会』は令和4年度を迎えました。基本理念に基づき、各事業は特色を活かし時代の変化に即応できる体制で、利用者の意思決定支援を行い、その人が希望する「自立支援」の達成と「安全で安心」できる総合的な福祉サービスの提供に努め、地域から選ばれる施設を目指します。

(1) 就業支援部

加古川はぐるまの家（多機能型）

【就労移行支援事業】（定員15名）

・「働く施設」の機能を有効に活かし利用者が自立した社会生活が営めるように基礎訓練（作業）や座学（社会のルール、マナー）や清掃研修等を行い、自己理解や職業準備性の確認に努めます。また事業所等での職場実習を積極的に行い、適職開拓と就職支援、職場定着支援を行います。

・個別支援計画を基に利用者の目標を明確にして課題解決に取り組み、標準利用期間の2年以内に就職できるような支援を目指します。

・精度の高いアセスメント力を活かして新規利用者の獲得に鋭意努めます。

・就職後の職場定着率は6ヶ月・1年経過後共１００％を目指します。また就職者の相談等を毎月1回第2土曜日に駅前「ふらっとステーション」で実施します。

【就労継続支援事業B型】（定員45名）

・「働く施設」の機能を有効に活かし個別支援計画に基づき、利用者が自立した社会生活が営めるように、授産作業やその他の活動を通して、働く力と生きる力の向上を目指して支援を行います。

・コロナ禍で授産作業は減少。新規作業開拓に努め継続的な就労の場を提供します。

・「働く施設」という施設カラーを前面に出し、一人でも多くの方にご利用いただけるように努めます。

・報酬体系が変更されましたが平均月額工賃は最高ランクを目指します。

・B型事業からも就職者の輩出を目指します。

加古川障害者就業・生活支援センター

・障害者雇用の促進を図り、身近な地域で就職希望者や在職中の方の職業生活が継続できるように総合的な相談支援をトータルコーディネートします。

・コロナ禍で雇用環境は厳しい状況が続いています。当事者の方の雇用継続並びに事業所の中には事業継続への不安等影響が出ています。関係機関と連携して適切な支援に努めます。

・就職希望者は増加していますが、雇用継続という点では準備不足や生活面での課題があります。移行期から職場定着支援体制を確立して在職中の相談や不適応を早期発見、早期対応し、離職防止に努めます。一方、必要に応じて退職支援や再チャレンジ支援も行います。

・ハローワークや「兵庫県障害者雇用就業・定着拡大推進事業」等と協力して顔の見える地域でネットワークを構築してチーム支援ができるように努めます。

・各市町の自立支援協議会等と連携して地域の課題解決に努めると共に、地域の就労支援力を高めるために、就労系福祉サービス事業所等と連携して就職希望者の発掘並びに雇用への道筋づくりに努めます。

・雇用事業所に対して障害者の雇用管理等の相談や助言を行うと共に、事業所間でネットワークが構築できるように支援します。

・在職者に定期的な交流の場を提供します。（年4回開催）

・駅前出張所「ふらっとステーション」の利便性を活かし「ふらっと」立ち寄れる相談窓口として、また働く障害者の息抜きの場としてより多くの人が利用できるよう啓発に努めます。

・就職者数…目標30件以上

・実習件数…目標20件以上

障害者雇用就業・定着拡大推進事業《県補助事業》

・障害者就職拡大推進員等を配置して障害者就業・生活支援センターと連携し、就職希望者や障害者雇用を希望する事業主に対して相談支援や助言を行うと共に、職場開拓や職場定着支援を行い就職の拡大に努めます。

相談支援事業所「はぐるま」

・障害福祉サービス利用希望者にサービ

4頁へ続く